

東北公益文科大学 産学官連携の取り組み

■ 地域産業活性化研究所が中心となり、酒田市内の3社と産学連携協定を締結。大学と企業が共同し、プロジェクト型応用演習で学生が商品開発に挑戦。

地域活性化や若者の地元定着を目的に、2026年5月に本学地域産業活性化研究所（所長：広崎心教授）が中心となり、本学と、酒田市内でスーパーを展開する株式会社トー屋、米菓製造・販売の酒田米菓株式会社、寝具販売等の睡眠屋の3者それぞれと協定を締結しました。

□プロジェクト1 「綿のねどこ」プロジェクト

この協定に基づき実施した1つめのプロジェクトは、学生サークル「Start-Up&Creation」のメンバーと、寝具製造・販売などの「睡眠屋」との「綿のねどこプロジェクト」。これは、長く日本の暮らしに寄り添ってきた綿布団に着目し、その良さを現代の暮らしに見合う形にすることを目的に、若い世代の声を反映するものにしたいと両者の共同開発がスタートしました。学生たちは、試作品を実際に使用し寝心地等をフィードバックしたほか、快適さ、持ち運びやすさ等から最適なサイズを考案。完成した極厚ベッドパッド「綿のねどこ」は、日本最大級のクラウドファンディングサイト「Makuake」で限定販売され、目標金額を大幅に上回る支持を集めました。

□プロジェクト2 「プロジェクト型応用演習 サプライチェーンマネジメントを体感する」

2つ目のプロジェクトは、2026年度春学期開講の「プロジェクト型応用演習 サプライチェーンマネジメントを体感する」。株式会社トー屋、酒田米菓株式会社、トー屋と同じCGCグループに属する縁から主婦の店鶴岡店が参画し、3社と共同で、2、3年生23名が、オリジナルせんべいの開発に取り組みました。工場や店舗見学、同社役員らによる講話、アイデア出しなどを経て完成したのがオリジナル米菓「イカ焼きせんべい」。学生たちは、商品開発のほか、酒田米菓のキャラクター「オランダちゃん」を用いた販促動画、インバウンドを意識した全編英語の販促動画、売り場のPOP制作にも携わりました。

このように、産学官が一緒になって連携しながら具体的な課題にチャレンジすることで、学生たちは「知識を活かす力」を養っています。加えて、第1期中期計画で目標に掲げている「学生の地元定着」のきっかけ作りにも取り組んでいます。

■ 酒田市におけるデジタル変革（「DX」）推進に関する取り組み

酒田市におけるデジタル変革（以下「DX」）推進による市民サービスの向上、地域課題の解決、デジタル人財の育成等を目的に、2020年11月に本学と酒田市、株式会社NTTデータ、東日本電信電話株式会社の4者による産学官共創の連携協定を締結しました。

本学では、データを収集し分析する力を身につける「データサイエンス・AI教育プログラム」を必修とし、特に、公益学部の専門コース「メディア情報コース」では、自ら築いた情報技術で世界・地域のつながりを活性化する人材を育成しています。プロジェクト型応用演習では、住民が本当に「使える地図」「使いたい地図」を構築・作成する「酒田KOEKIマップ」プロジェクトを開講するなど、酒田市のDXへの取り組みを継続しています。